

● 令和2年度推薦入試 I 講評

1 小論文

(1) 方法

本年度の小論文課題では、食料の安定確保と温暖化防止の二者択一に対応する困難を記した新聞社説を提示し、受験生には、文中で提示された課題を整理し、その課題に対して、個人また宮崎県としてどのような取り組みが可能かを問うた。

この課題は、一人一人にできることは何かを当事者として考えてもらうことで、提示された作題の意図を適切に読解できているか、提示された課題を適切に読み取る分析的な視点を持ち、自分の主張を論理的に表現する文章力を持っているか、といった観点から、本学のアドミッション・ポリシーに則り、広く国際社会の課題の探究と解決に、主体的に取り組む姿勢を持っているかを確認することを目的として作成された。

(2) 結果に関する評価

評価のポイントは、①課題文で提示された新聞社説の課題を整理できているか、②整理した課題へどのように取り組むのが明確に主張され論理的な展開となっているか、③根拠が提示され、終始一貫した論の展開となっているかどうか、であった。

そのため、課題文で提示された意図が読み取れていないもの、主張が不明確なもの、主張を支える論拠が不十分なもの、表現を変えているだけで同じ内容が繰り返されているもの、そして意見に独自性があっても文章の展開が論理的に飛躍しているものなどは低い評価となった。また、段落の使い方等の構成力が不十分なもの、極端に字数が少ないもの、判読困難なほどの乱筆、誤字脱字が多いもの、など文章の基本が守られていないものも低い評価となった。

一方、課題文で提示された内容を適切に読解しているもの、自らの経験や知識に基づいて論拠を示しているもの、自らの主張を明確に提示し、論理的に説明できているもの、文章の構成がしっかり考えられているもの、宮崎県の状況を示すなど取り組みの具体性と独自性があるもの、などについては高い評価となった。

2 グループ面接

(1) 方法

本年度のグループ面接では、近年メディアで取り上げられることが多く、高校生にとっても身近である「校則」を題材に、そのあり方について、校則というルールが子どもたちを守ることになる利点と、子どもたちの権利を侵害する弊害をあげ、生徒・保護者・教師など様々な人々の視点から校則のメリットまたはデメリットの対立軸のいずれかの立場に立って議論し、グループでの結論をまとめることが求められた。

なお、当日のグループ面接がスムーズに進行できるよう、ある程度の知識や考え方の方向性について準備しておいてもらうことを目的に、受験生には、課題に関連する4つのキーワード（学校教育、校内秩序、子どもの人権、ダイバーシティ）が、事前に示されていた。

(2) 結果に関する講評

評価基準は、①表現する力（キーワードの的確な理解を前提に自分の意見を論理的かつ的確に伝える力）、②面接の態度（他人の発言を十分に理解できるよう真摯に聞き、積極的にかつ意欲的に議論に参加する態度）、③適性（様々な立場の視点を考慮し、多角的で論理的な思考ができているか）の3つの観点であり、本学のアドミッション・ポリシーに従った学力（態度、意欲、思考力、判断力、表現力）とコミュニケーション能力が備わっているかが問われた。

グループ面接の結果、課題を適切に理解できている受験生、議論をふまえて発言できている受験生、他の受験生の質問に適切な回答ができる受験生、他の受験生の主張を適切に聞くことができる受験生、他の受験生の意見を取り入れながら議論を展開できる受験生、展開されている議論をふまえて新たな展開ができる受験生、論点が整理できる受験生、主張に具体性がある受験生、どの立場による主張か明確な受験生、などは高く評価された。

一方で、事前に準備してきたことを主張しすぎる受験生、他の受験生と同じことを繰り返す受験生、自分の主張を適切に言語化できていない受験生、自分の主張が少ない受験生、話し合われている論点が理解できていない受験生、課題文を適切に理解できていない受験生、主張に一貫性がない受験生、「校則」とは関連しない観点で意見を述べる受験生、などは低い評価となった。

3 個人面接

(1) 方法

1人約20分で面接を行った。評価の基準は次の3点であった。

① 表現する力

自己推薦書やアピール・ポイントの内容をわかりやすく表現しているか。

自分の考えを面接員の質問に応じて理解しやすい形で表現しているか。

② 面接の態度

相手の発言を真摯にきく態度であるか。

対話に参加しようとする姿勢であるか。

③ 適性や意欲

入学への真の意欲があるか。

「大学案内」などによってカリキュラムの内容を理解しているか。

(2) 結果に関する講評

上記の3つの基準を踏まえて評価をした。その結果、面接員のコメントは下記のようなものであった。

① 「表現する力」に関するコメント

自己アピールなどを自分の言葉を使って表現したものや、自分の高校時代の取り組みについて具体的なエピソードを示しながら表現したものが高い評価となった。また、本人の将来のビジョンと本学での学びについて一貫性かつ具体性のある説明が出来る生徒には高い評価となったが、そうでない生徒では、低い評価となる場合が多かった。受験生には、自分が本学において行いたい学びを、自分の将来のビジョンと関連して具体性のある表現を自分の言葉で話してほしい。

② 「面接の態度」に関するコメント

面接での態度において、緊張して多少ぎこちない返答などでは評価には影響はない。しっかりと面接員の質問を聞いて、質問されたことについて落ち着いて返答することが重要である。

③ 「適性や意欲」に関するコメント

最も重要な点は、本学へ入学したいという意欲が感じられることであるが、それに見合うだけの本学に関する理解も求められる。ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、学びの特色について、また、学びたい科目やゼミ、教養課程と専門課程などの理解は不可欠である。それら知識不足が露呈するようでは、決して高い評価を受けられない。これらについては、大学案内を暗記するだけの知識となってはならず、十分理解した上で、自分の将来のビジョンへどのように繋げていくかについて意欲的に表現を行った受験生には高い評価が与えられた。